

Syllabus Id	syl.-090040
Subject Id	sub-090-105754
更新履歴	090325
授業科目名	工業外国語Ⅱ(Technical English - Part Ⅱ)
担当教員名	西田友久ほか(機械工学科全教員) NISHIDA Tomohisa et al.
対象クラス	機械工学科5年生
単位数	1履修単位
必修/選択	必修
開講時期	後期
授業区分	
授業形態	演習
実施場所	機械工学科M5HR, 図書館ゼミ1

#### 授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

近年、企業活動の国際化によって、英語文書の読解能力が技術者に求められている。また、技術者が海外で業務を行ったり、海外の技術者と共同で業務を行うことも多くなってきているので、国際語としての英語によるコミュニケーション能力を身に付けることが求められている。

この授業では、前期の工業外国語ⅠでのTOEICを題材としたコミュニケーション能力養成に引き続いて、技術者に必要とされる英語文書の読解能力を向上させることを目標としている。具体的には、機械工学分野の英文テキストを講読して工学分野の英語に慣れ親しむ。工学分野の英語検定試験である工業英検3級の内容も学習する。技術英語の総合的な能力を向上させるために、クラスを2グループに分けて、質問しやすい環境で授業を行う。

#### 英文法基礎、英文解釈基礎

学習・教育目標	Weight	目標	
		A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
	◎	D	国際的な受信・発信能力の養成
		E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成
D.国際的な受信・発信能力の養成			

#### 学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。
2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。
3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。

#### 授業目標

1. 工業英検3級程度の英単語と文法が理解できる。
2. 機械工学分野の各種の英文を訳して、理解できる。
3. 機械工学分野の英文アブストラクトを和訳して、理解できる。

#### 授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません)

回	日付	メインテーマ	サブテーマ(担当教員)	参観
第1回	10/1	オリエンテーション	プログラムの学習・教育目標、授業概要・目標、スケジュール、評価方法と基準等の説明ならびに班分け。	
			1班	2班
第2回	10/8	工業英検3級問題	松田	新富
第3回	10/15	材料力学	西田	岩谷
第4回	10/22		岩谷	西田
第5回	10/29	流体力学	手塚	村松
第6回	11/12		村松	手塚
第7回	11/19	機械要素	永禮	宮内
第8回	11/26		宮内	永禮
第9回	12/10	制御・金属材料	三谷	井上
第10回	12/17		井上	三谷
第11回	1/7	工業英検3級問題	新富	松田
第12回	1/14	英文アブストラクト	卒業研究に関する英文アブストラクトの和訳をして内容も理解する (卒業研究指導教員)	
第13回	1/21			
第14回	1/28			
第15回	2/4			
第16回	2/18	まとめ、アンケート		

#### 課題

1. 提出物  
各テーマごとの課題
2. 提出期限

テーマ担当教員が指示する

3. 提出場所:テーマ担当教員

4. オフィスアワー:月～金の放課後から17:15まで。

#### 評価方法と基準

##### 評価方法:

- (1) 授業目標1.および2.については、テーマごとの提出課題により評価する。
- (2) 授業目標3.については、提出したアブストラクト和訳により評価する。

##### 評価基準:

授業目標1.,2.についての課題90%、授業目標3.についての課題評価10%の割合で評価を行なう。  
60点以上を合格とする。

教科書等	ALC NetAcademy 2, COCET3300, プリント
先修科目	総合英語A・総合英語B・工業外国語 I
関連サイトのURL	<a href="https://nct-na.numazu-ct.ac.jp/anet2/">https://nct-na.numazu-ct.ac.jp/anet2/</a>
授業アンケートへの対応	学生の理解度を把握しながら英語力の向上を目指す。
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。